

# 中病棟（Ⅱ期病棟）

## 次世代医療・iPS細胞治療研究センター（Ki-CONNECT）

### 建物概要

構造	鉄筋コンクリート造(免震構造)
階数	地下1階 地上8階 高さ 30.97m
規模	延床面積 31,661㎡
病床数	301床(内高機能病床 90床)
総工事費	約150億円
竣工	2019年9月
開院	2019年12月(中病棟) 2020年4月(次世代医療・ iPS細胞治療研究センター)

外観（北西より撮影）



### 整備効果

#### 【中病棟（Ⅱ期病棟）】

- 重症系病床を集中配置し、医療安全面にも配慮した病床管理体制の強化を図り、集中治療管理機能、救急医療、手術機能を有機的に結び付け、救急医療における安全性の向上と効率的な治療を実施する。
  - 重症妊産婦・重症新生児等の集中治療機能の充実、分娩機能の集約により、スタッフの業務効率性に配慮した動線整備を実施する。
- 拡張性のあるRI施設を整備し、今後ますます増加が見込まれる患者ニーズに対応するとともに、サイクロロンやホットラボ室の充実により、臨床研究の場における新たな検査・治療方法の開発を促進する。
- 高度急性期医療の提供における医療スタッフの業務効率性に配慮した諸室・動線を整備し、診療実践型教育と高水準の医療技術に触れる環境でメディカルスタッフを育成する。



「横断的医療」の提供を「高度急性期医療」の中に組み入れ  
専門性が高く最先端の医療提供を管理できる体制を構築し  
ハイリスクな先進医療の安全な実施と急性期医療における  
高度医療の提供により、診療水準の向上を図る

#### 【次世代医療・iPS細胞治療研究センター

#### （Ki-CONNECT）】

- iPS細胞をはじめとした臨床研究機能のうち、院内で被験者に直接関わる機能について集約化させることで、臨床研究・臨床応用を円滑に実施する。
- 治験に必要な細胞操作・薬品準備等については、学内外の研究機関と役割分担を行い、それらと連携を図りつつ、院内各部門とも連動しながら被験者の観察・評価を円滑に行うことができる体制を構築する。



細胞移植治療・再生医療の開発を支援し、臨床研究の標準医療  
への実用化を図り、国際水準の臨床研究を推進する拠点として  
日本の臨床研究全体の活性化に尽力し  
日本発のイノベーションを世界に発信する

# 建物配置



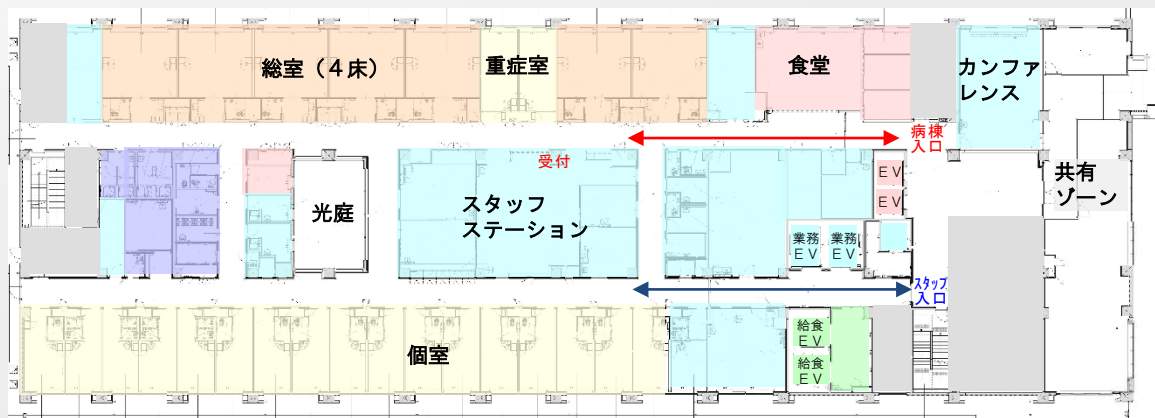
# 設計コンセプト

## 一般病室

- ① 機能の充実とアメニティの向上
- ② 高度先端医療を支える施設
- ③ 快適な医療空間を創造

### ① 機能の充実とアメニティの向上

- 光庭を病棟中央付近に設けて自然採光を確保し、療養環境と職場環境を向上させる。
- セキュリティ管理のしやすいゾーニングとする。
- 患者動線と搬送動線の区別により、機能性を向上させる。
- 生体サイクルに合わせた24時間自動調整照明を導入する。  
(サーカディアン照明)



凡 例	
	個室ゾーン
	総室ゾーン
	スタッフゾーン
	水廻りゾーン
	談話ゾーン
	給食ゾーン
	設備ゾーン

### ※基準階の概要

- 病室は総室（4床）を北側に、個室を南側に配置し、各病室にトイレを分散設置する。
- カンファレンス室は、1フロアに1室の割合で配置し、上下階で共有して使用する。
- 縦動線（EV）は、使用用途毎に区別し、病棟の右側（東側）に集約配置する。
- 病棟フロアは基本的に各階共通の造りとする。
- スタッフステーションはオープンな造りとする。

### ② 高度先進医療を支える施設

- 看護効率が高く、スタッフが身近に感じられる病棟とする。
- スタッフ諸室の集約化により、働きやすく学びやすい病棟とする。
- 多様なスタッフ諸室の配置により、集学医療の実践を促進する。

### ③ 快適な療養空間を創造

- 総室は個人のプライベート領域を形成しやすい4床室のしつらえとする。
- 総室は8㎡/床を満足し、ベット廻りのスペースを確保する。
- 分散トイレにより早期離床を促す。

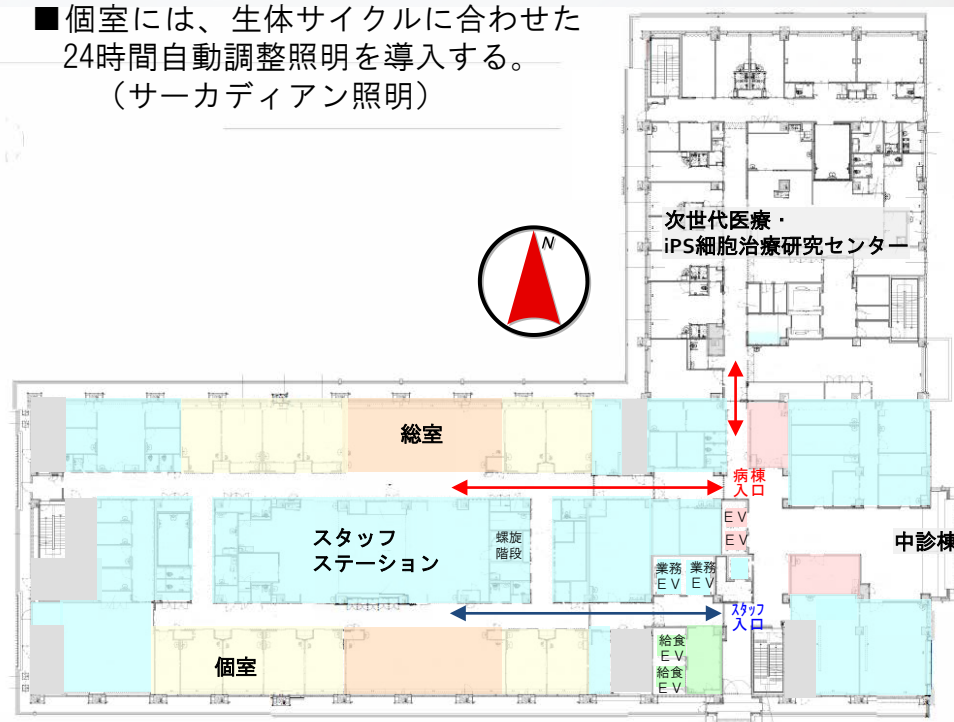
# 設計コンセプト

## 集中治療室

- ① 機能の充実とアメニティの向上
- ② 高度先端医療を支える施設
- ③ 快適な医療空間を創造

### ① 機能の充実とアメニティの向上

- セキュリティ管理のしやすいゾーニングとする。
- 患者動線と搬送動線の区別により、機能性を向上させる。
- 個室には、生体サイクルに合わせた24時間自動調整照明を導入する。  
(サーカディアン照明)



### ② 高度先進医療を支える施設

- 看護効率を高める室配置とする。
- スタッフ諸室の集約化により、働きやすく、学びやすい病棟とする。
- 多様なスタッフ諸室の配置により、集学医療の実践を促進する。

### ※集中治療室の概要

- 1階にES-ICU、3、4階にICUを配置する。
- 病棟フロアは基本的に各階共通の造りとする。  
→ 病室の配置やスタッフ室の配置は、特別な場合を除き各階共通とする。
- 3、4階は連携して運用できるように直通の螺旋階段で接続する。
- カンファレンス室は、1フロアに1室の割合で配置し、上下階で共有して使用する。
- 病棟フロアは基本的に各階共通の造りとする。

凡 例	
■ (Yellow)	個室ゾーン
■ (Orange)	総室ゾーン
■ (Cyan)	スタッフゾーン
■ (Pink)	談話ゾーン
■ (Green)	給食ゾーン
■ (Grey)	設備ゾーン

- スタッフステーションは、患者さんの状態を把握できるようにオープンな造りとする。
- 治験患者さんの緊急対応が可能なように集中治療ゾーンと直接の接続口を設ける。

### ③ 快適な療養空間を創造

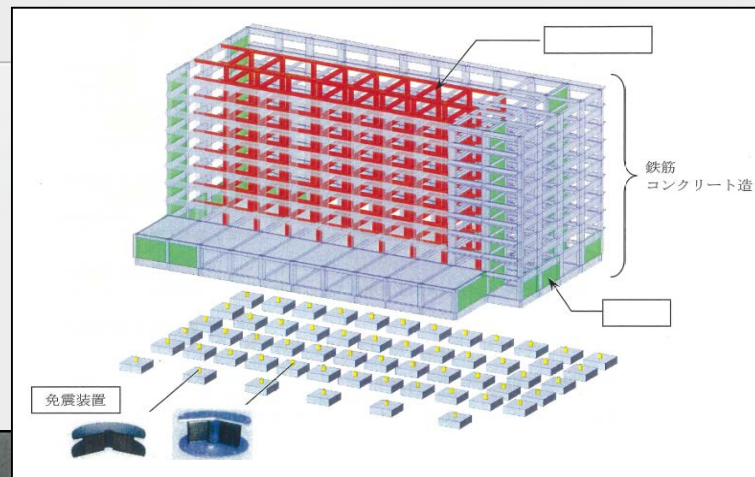
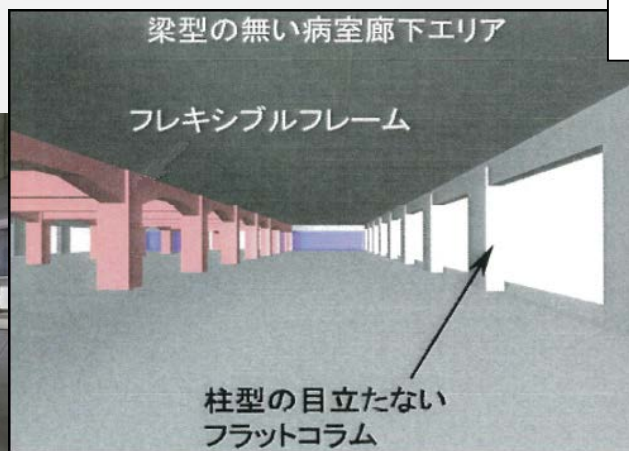
- カウンターユニットにはベッドごとに透析、アイソレーション盤を分散配置・メンテナンス性の向上を図る計画とする。
- 病室はスーパーICUの基準20㎡/床を満足し、ベッド廻りに空間を確保し、効率的な治療・看護空間を確保する
- PSを集約し、スタッフステーションから見通しの利きやすい配置計画とする。
- 介助リフトや分散トイレにより早期離床を促す。

# 設計コンセプト

- ④ 柔軟性を確保（フレキシビリティを持った構造）
- ⑤ エネルギー使用量の削減

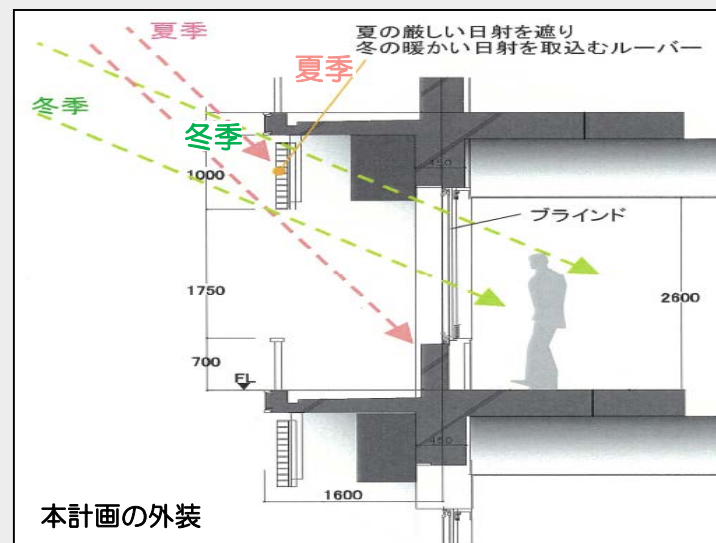
## ④ 柔軟性を確保 （フレキシビリティを持った構造）

- 中病棟は、免震構造の採用により、上部構造の地震時の応答を低減させ、医療施設の安定的な運用を可能にしている。
- フラットスラブを病室の床として採用し、フレキシブルな無梁空間としている。建物中央はコアフレームにより水平剛性を確保している。
- 南北面の柱は、扁平なフラットコラムとすることで、柱型を目立たなくしている。



## ⑤ エネルギー使用量の削減 （熱負荷低減のためのルーバー）

- 建物の南側に遮光用水平ルーバーを設け、直射日光を遮断。
- 冬季はルーバーを透過した日射を室内に取り込む計画。



# 設計コンセプト

## ⑥積貞棟・南病棟・その他周辺建物との調和

### ⑥ 積貞棟・南病棟・その他周辺建物との調和

(積貞棟のデザインエレメントを継承し、病院全体の外観デザインの調和を図る)

- 京都らしさの表現
  - ・・・ 外観はルーバーや庇など陰影のある線材で構成し、「格子」や「簾」をイメージさせる京都らしい外観とする。
- 勾配屋根の目隠しルーバー
  - ・・・ 屋上設備機器の目隠しルーバーは、既存積貞棟のデザインを継承し、東山の山並みと調和する勾配屋根とする。
- 水平線の強調
  - ・・・ 各階のバルコニーにより水平線のイメージを強調する。
- シンプルな平面計画
  - ・・・ 無駄な凹凸のないシンプルな正方形とする。
- 色彩の調和
  - ・・・ 既存建物の色彩に調和した外装材を使用する。



# 設計コンセプト

## 次世代医療・iPS細胞治療研究センター（Ki-CONNECT）

■以下の試験に対応した被験者専用病室、救急時の動線に配慮した施設設計、企業との共同研究エリアの設置、及び厳格なセキュリティー設定

- ・ iPS細胞をはじめとする再生医療等製品の臨床試験
- ・ がん、難治性・希少疾患を対象とした早期臨床試験等

一方で次の試験も実施する。

- ・ 健常人を対象とした、薬の特性や作用を調べる第Ⅰ相試験



2階 生体試料保管・分析室



総室（4床）



個室

3、4階 治験病棟：病室



2階 企業との共同研究スペース



治験病棟：ラウンジコーナー・図書コーナー